

お知らせ



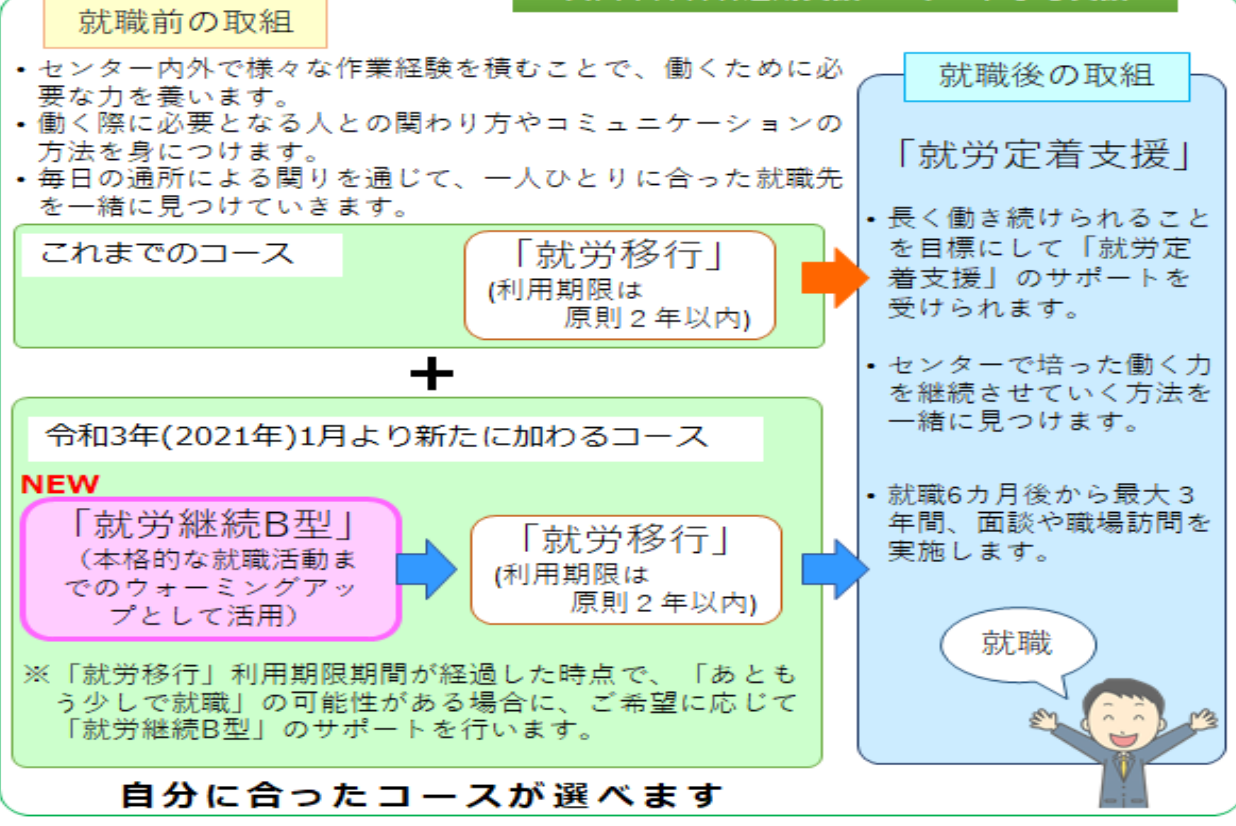
「箕面市障害者雇用支援センター」が
令和3年(2021年)1月より支援を拡充しました。

平成8年(1996年)の開所以来、地域の関係機関や企業の理解もあり、これまで230名以上の方が就職し様々な職場で活躍されています。
就職の広がりを受け、コロナ禍でも就職件数が堅調に増えていることから、これまでの事業団では十分にサポートできなかったニーズにも応じることを目的に、新たな取組を始めることとなりました。引き続きよろしくお願ひいたします。



- ・「就労移行」を利用する前の準備期間のサポートがあれば安心
- ・とにかく、じっくり「就職」に向けて考えていきたい

箕面市障害者雇用支援センターによる支援



あとかぎ

1年前のお正月に京都まで競馬観戦に行けていたのが信じられないぐらい、この1年で大きく状況が変化しました。当事業団も初めてリモートワークを取り入れた部署があったり総務課としても新しい働き方についての変化の勉強を行った1年でもありました。
みなさんも感じられていると思いますが、しばらくはこの状態が続きそうです。少しでも早くワイワイ出来る新しい生活様式が確立されることを願うばかりです。
(庶務係担当者)

箕面市障害者事業団 ニュース 令和3年(2021年)1月

発行：一般財団法人 箕面市障害者事業団
〒562-0015 大阪府箕面市稲一丁目11番2号 ふれあい就労支援センター4階
電話 072-723-1210 FAX 072-724-3383 Email info@minoh-loop.net

箕面市障害者事業団 ニュース

令和3年(2021年)1月

新年のごあいさつ

令和2年の漢字は「密」。特大の筆で書く姿は師走の風物詩になっていますが、密には「親しい」という意味もあるそうです。人とのつながりを大事にしながら支援をする私たちにも通じる部分もあるかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が1日も早く収束を迎え、生活が平常に戻る事を願いつつ、今年も職員一同、日々の業務に励んでまいります。本年も引き続き箕面市障害者事業団の運営等に対しまして、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

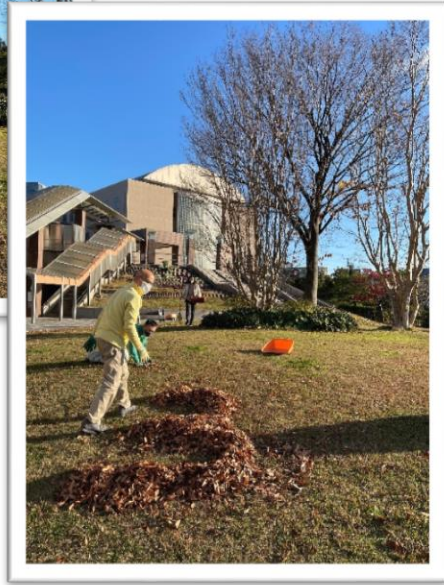
さて、本年も各部署の近況についてお知らせする「ニュースレター」を作成いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。



設立30周年記念誌作成中

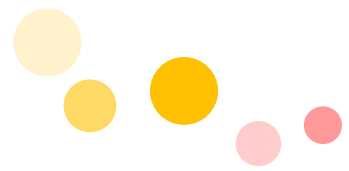


平成2年(1990年)に設立した箕面市障害者事業団は、箕面市や地域の皆さま、そして関係機関の皆さまに支えられ、令和2年(2020年)に設立30周年の節目の年を迎えることができました。心より感謝申し上げます。



30年の歩みを振り返るべく、記念誌を現在作成しています。完成しましたら、懐かしい写真と共に、昔話に花が咲くそんなきっかけになればと思います。

どうぞお楽しみに。。。



箕面市障害者事業団 令和2年（2020年）の取り組み色々



東京オリンピック開催年とワクワクしながら迎えた令和2年。しかし、想像もしなかった新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう年となりました。Withコロナの中での出来事や取り組みを各部署から皆様へお届けさせていただきます。

事業課 (受託事業(緑化推進事業、リサイクル事業)、啓発事業、収益事業等)

●高田職員の活動、田中職員の研修



左の写真は高田職員がブログ原稿を執筆している場面です。自身のことや最近では防災対策のことなど幅広い視点で執筆活動しています。当事業団ホームページに記載していますので、ぜひご覧ください。

右の写真は田中職員が水やりをしている場面です。事務所内の消毒作業や廊下清掃など初めての作業が多いですが、一生懸命取り組んでいます。



●新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルスの影響に関し、受託事業では、通常通りの勤務が必要でしたので、出勤日や休憩時間を交替制にする等して業務にあたる部署もありました。

喫茶店では、お客様のご利用が激減したため、店舗の休業や時短営業をおこないました。営業時には、お客様同士の間隔を空けるために客席数を減らしたり、飛沫感染防止のパネルを設置し、また、テーブルやイスはアルコール消毒等を実施しました。毎年夏と冬に開催してお客様で賑わう「ライブラまつり」も残念ながら中止となりました。

また、各部署に非接触型体温計を準備して、体調管理に努め、コロナ禍でも無理の無い範囲で、日々の業務に励んでいます。

●様々な取組

これまでも、市立リサイクルセンターに集まったバザー用品等の提供や、箕面市の障害者優先調達の取り組みと連携して、みのおライブプラザの日常清掃や市立図書館蔵書の修理などの業務を当事業団が一括して受託し、市内の障害者事業所や施設へシェアし収益の向上のお手伝いをしてきました。

2020年はあらたに、民間事業所への物品供給や市内小学校の学童保育室への手作りおやつ提供の調整などを行いました。

今後も、障害者職員の勤務する現場と合わせて、市内の障害者事業所や施設を支援する取り組みも続けていきます。

就労支援課 (箕面市障害者雇用支援センター、豊能町障害者就業・生活支援センター、相談うぶ)

これまで経験しなかったコロナ禍での支援場面から1年を振り返ってみました。

●企業で働いている障害者にとっての令和2年

- ・「コロナ禍でも、企業での就職ができました！」
- ・「清掃のお仕事で消毒などの回数が増えて忙しくなりました！」



合同面接会などの大規模な就職イベントは中止となりましたが、ハローワークとの連携などもあって、計20名が新たに就職されました。

(雇用支援センターから5名、就業・生活支援センターから15名<重複登録含む>)

たくさんの人たちが、これまでと変わらずに企業で活躍されている一方で、次のような関わりもありました。

- ・「頑張ろうと思っていた職場実習が延期になってしまいました」

挑戦しようとしていた企業の求人・実習が取消しや延期になるなど、予定の変更を余儀なくされた人もおられました。また、緊急事態宣言中の自宅待機など、先行きが見えない時期ゆえに不安を感じる人も多くおられました。今後もしっかりと支援をしていく必要を感じています。

●地域で生活する障害者にとっての令和2年

- ・「ガイドヘルパーさんとの外出の楽しみがなくなりました」

相談支援で関わる障害者も、コロナ禍での外出自粛の影響を受けました。近くを散歩したり、家での過ごし方などを一緒に考えることもありました。



●支援をする私たちにとって…

- ・「時差出勤や『3密回避』の対応など、みんなで意識しています！」
- ・「リモートでの会議や研修、在宅勤務も試行錯誤で行っています！」



職員だけでなく、訓練で通所する人、相談で来所する人などの感染対策も、政府や箕面市などからの情報をもとに、当事業団総務課とも連携しながら対応しています。意外と効果的に思えるのがwebでの研修。これまでだと参加が難しかった東京などで実施される全国的な研修会なども、パソコンを通して参加できています。各地での最新の情報を得て、支援に役立てていきます。

まだまだ先が見えない状況ですが、こんな時期だからこそ、当事者や企業等のニーズや「困り感」に寄り添った支援を心がけていきます。